

# オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）

令和2年7月31日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## ほ場での発生状況に注意し、発生を確認したら防除しましょう！

### 1 発生生態

本種は1卵ずつ葉裏等に産卵するので、幼虫期に集団で食害することはありません。若齢幼虫期には展開中の新葉や花のつぼみに潜り込むことが多く、中齢幼虫期以降は莢や果実の内部、茎の中や結球の内部へ移動します。終齢幼虫は土に浅く潜って蛹化します。

本種の寄主範囲は極めて広く、ダイズ、キャベツ、キク以外にもトマト、ナス、キュウリ、イチゴなどの野菜類、バラ、カーネーションなどの花き類で被害が記録されています。作物への被害は、7～10月に最も多くなります。

### 2 発生状況

フェロモントラップにおける本種の誘殺数は、稲沢市のキク栽培地域と豊橋市のキャベツ栽培地域ではおおむね平年並で、豊川市のキク栽培地域では平年よりやや少なく推移しています。安城市や西尾市のダイズ栽培地域でも平年よりやや少なく推移しています（図1）。

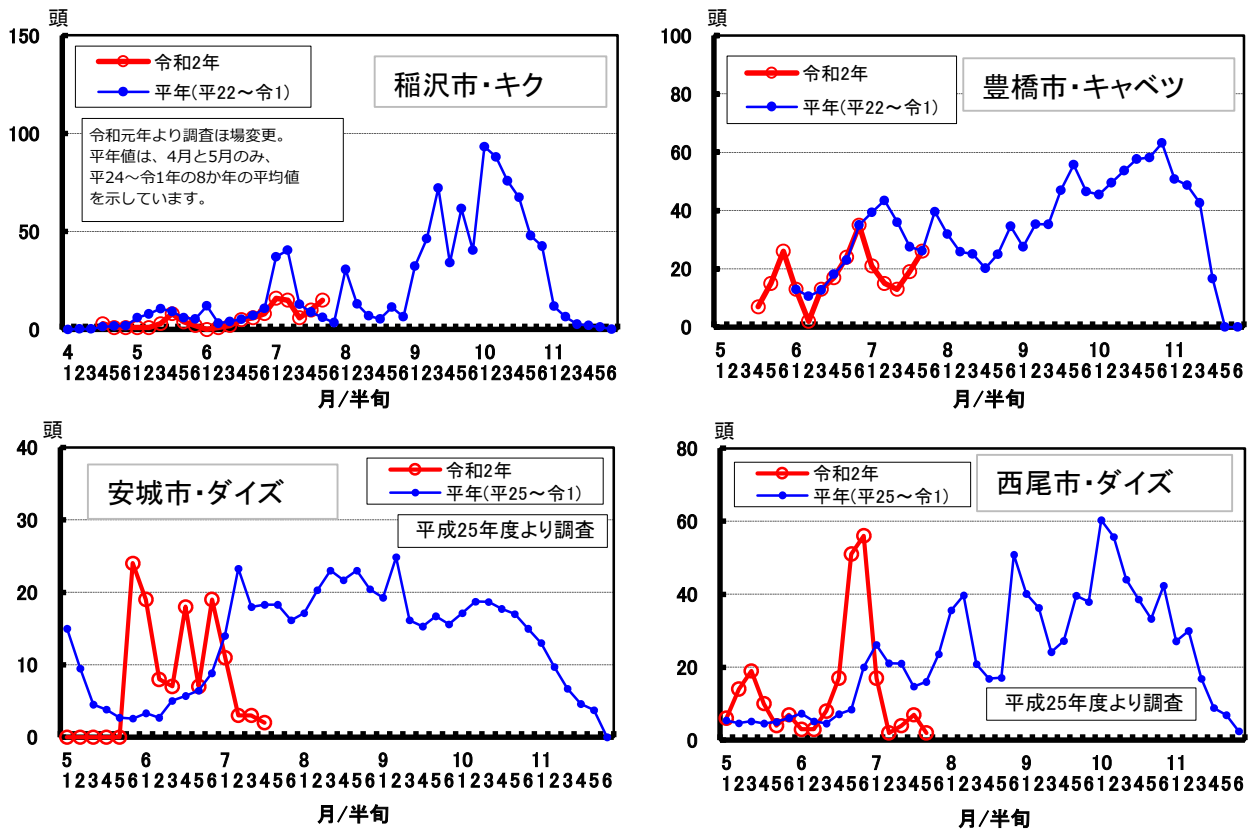


図1 フェロモントラップにおける誘殺状況

### 3 今後の予測

7月30日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば気温は高く、降水量はほぼ平年並と見込まれています。本種の増殖に適する天候が予想されるため、**今後、発生量が増加する可能性**があります。

### 4 本種による被害と防除対策

ダイズにおける本種による被害は、ハスモンヨトウのように幼虫が集団で葉を食害することがなく、白変葉にはなりません（図2）。そのため、ほ場外からの観察で発生を確認することは困難です。また、直接、莢を加害する（図3）ことから、被害が大きくなります。**ダイズにおいては産卵が多い開花期までの防除が重要です。**

キャベツでは、栽培初期の被害は他のチョウ目害虫による被害と違いはありませんが、**結球内部に食入する性質があるため、結球開始前までに防除を徹底することが重要です。**

キクでは着蕾後に加害を受けると商品価値が著しく低下するため、**着蕾以降は特に注意しましょう。**

表を参考に、発生を確認したら防除しましょう。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じIRACコードの薬剤は連用しないようにしましょう。

表 オオタバコガに対する主な防除薬剤

作物名	農薬名	使用時期	使用回数	IRACコード
ダイズ	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	15
	プレバソンフロアブル5	収穫7日前まで	2回以内	28
	プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	UN
キャベツ	アニキ乳剤	収穫3日前まで	3回以内	6
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	22B
	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	28
きく	アクセルフロアブル	発生初期	6回以内	22B
	フェニックス顆粒水和剤	発生初期	4回以内	28
	コテツフロアブル	発生初期	2回以内	13
花き類・観葉植物	アフーム乳剤	発生初期	5回以内	6
	プレオフロアブル	発生初期	4回以内	UN

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2020/mechanism\\_irac02.pdf](https://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf) を参照する。農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。



図2 オオタバコガ幼虫と被害葉(ダイズ)



図3 莢(ダイズ)を食害する老齢幼虫